

第2回 塩竈市地域公共交通会議 議事録

日 時：令和5年5月29日（月） 14：00～14：50

場 所：塩竈市役所3階北側委員会室

出席委員：千葉会長、長尾委員、熊谷委員、吉本委員、舩山委員、土井委員、郷家委員、平山委員
中村委員、植松委員、本多委員、長峯委員、草野委員（計13名）

欠席委員：長谷部委員、佐藤委員、浅野委員

事務局：塩竈市総務部政策課

1. 会議目的

持続可能なバス運行に向けた経費圧縮案を事務局より示し、意見を頂戴するもの。

2. 協議結果

今回挙げられた意見を参考に、運行維持のための対策案を整理し、アンケート結果と併せて次回会議にて示す。次回開催は7月中旬から下旬予定とする。

3. 議事要旨

[協議事項]

- ・運行維持に向けた対策について

事務局から協議事項について説明

[質疑等]

郷家委員：シミュレーションの条件として、東村山市を採用しているが塩竈市と共通点はあるのか。

事務局：東村山市の料金改定前バス利用者数は43万人程度。人口規模としては東村山市の方が大きい。共通点が多いわけではないが、実際に運賃値上げを行い、かつ料金改定後の乗客数減少率を公表している自治体であったため東村山市を参考とした。

中村委員：市長の公約に、100円バスの料金改正があったと記憶している。その後、市内の関係業者と協議した結果、便数の増加は運行業者の負担が増すため難しいという経緯があったと聞く。今後具体的な対策の決定後、運行業者との調整など、どのような進め方となるのか。

事務局：料金や運行本数の見直しを行う場合、運行業者との調整は必要となる。本会議を通し、今後の維持可能な運行方法を決め、打ち合わせを行う。またその他、国土交通省への報告などが必要となる。

中村委員：高齢者の集まりにおいて、免許証自主返納後1年限りのバス乗車賃免除では足りないという意見を聞く。2年目以降の免除継続は、利用者に対するサービス向上に繋がるのではないかと。また、乗車人員が減ってくる中で収入を増やすのはもちろん大事なことだと思うが、乗る人を増やすことも重要ではないかと思う。定期券や回数券の発行は前向きな見方と捉えるが、今後ますます利用者数は減っていくと考えられる中で乗客を増やす方法は他に考えられない

か。

事務局：免許返納者の2年目以降乗車料金免除は、今後も声が多い場合、具体的に検討したい。また、利用者数増加策の方法として、例えば、キャッシュレス決済の導入や観光と関連し利用者数が増えるようなルート作成などの検討も考えられる。

中村委員：乗車人員を増やすというのは、今の状況を基準として増やすということによいか。

事務局：そのとおり。

会長：資料上、コロナ禍以前に乗客数が戻ったと仮定しても、人口減少が続いている中、利用客を増やしていく案は初期投資の面から難しい部分もある。そういった中、東村山市は料金改定後の乗客推移のデータを公表している数少ない事例のため、シミュレーションの材料として計算した。料金を上げれば、収入は増えるものの利用客も減るというバランスの中で最大の収入を目指すか、コロナ前と同等以上を目指すかによって、220円と150円に上げた額をシミュレーションで提示している。

吉本委員：220円がピークとして一時的な収入を見込むよりも、継続的な運行のため150円の運賃に改定をして、持続可能な計画を立てていこうというのは十分理解できるが、乗客数増化策として、子ども無料化やシルバーパス、定期券というのは、どの自治体でもやっている。塩竈市らしい利用者の方が一目置くような発想を持ちイベント等を実施していただくようなことがあれば、メディアに取り上げられて、人口減少するなかでも、他の地域からの利用者増加が見込めるのではないか。相乗効果を見込めるのであれば50円上げて乗っていいとなるかもしれない。そういった点も検討していただきたい。

事務局：塩竈市らしい公共交通の在り方についても、今後の検討材料とする。

土井委員：仮にしおナビ100円バスの料金を150円に設定した場合に、NEWしおナビバスも150円に設定しないといけないのか。料金設定の仕方について、一律ではなく片方だけ150円にする等、検討できないか。

事務局：現時点では市内各地域の利用者に、公平に利用していただくという観点から、一律の提案としていた。今後、利用者の割合等も踏まえ、値段の設定を変えるということも検討したい。

吉本委員：乗車人員が増えれば、子連れ客なども増えるが、車両に対する安全対策などは現在のマイクロバスで十分間に合うのか。手すりがないため立ち乗りは無理だと思うが、限られた人数までしか乗れないのではないか。

事務局：5ページ目のグラフは、乗客数に対して収入がいくらになるのか示したものであり、乗員可能数に上限があることから実際にグラフの通り乗客数を増やすことは難しいと考えている。なお、最大席数はしおナビバスが55席程度、NEWしおナビは21席で補助席を含めて28席となる。

植松委員：仙台から松島のインバウンド客はいるが、電車で塩竈市に降りる方が少なく塩竈市の観光部局とも協議していた。観光部局もインバウンドに対するデータ等あると思われるため、連携したマーケティングも一つの手ではないか。キャッシュレス対応などすぐには難しいと思われるが、持続可能な運行を考えるとインバウンドは重要である。可能な範囲で検討いただきたい。

事務局：交通部局を中心に本課題を検討していた。インバウンドは今後重要な課題となるため、観光

部局と連携した取り組みも視野に入れていきたい。

長尾委員：コロナの影響により、輸送人員が減ったが最近は回復傾向にある。ただし回復幅は限界に近く、結果的にはコロナ前の8割ぐらいしか戻らない予想。その中で、人件費や燃料代といった経費は上がっており、市の財政も厳しいとなると、運行維持のために値上げはやむを得ないのではないか。ただし値上げ幅は市民の声を聞き、調整する必要があるのではないかとと思う。

熊谷委員：タクシーはコロナ前に比べ、まだ客の戻りが足りないと感じる。

郷家委員：恐らく今現在100円バスを利用している方は、バスしか移動手段がない固定客ではないかと思う。実際、市内でどの程度固定客がいるか、ある程度人数が把握できれば増加人数を導き出しやすいのではないかと。

事務局：今後アンケートの実施を検討している。日頃のバス利用頻度、行先、免許証や自家用車の有無、料金がいくらまでであればバスを利用するか等を調査する予定である。6月中の実施を考えている。調査方法は市内施設等でのアンケート用紙配布とインターネット調査の2つの手段とする。調査結果は次回の会議で示したい。

吉本委員：実施にあたり、塩竈市としてバスを利用していただきたい年代層を明確にし、将来の展望を定めたいうえで実施していただきたい。また、インバウンドの方々たちにどうしたら塩竈に来るか、塩竈に来たらどこに回ってみたいかというのも聞いていただき、今後の環境整備に役立ててほしい。

事務局：いただいた意見を踏まえ、アンケート内容を精査する。

中村委員：利用したい人が手を挙げ、指定の場所に停まってもらい、あるいは乗客が希望する場所に降ろしてもらえらというような制度の採用はできないか。

事務局：いわゆるデマンド型交通は他の自治体でも導入されている。デマンド型交通というのは公共交通の空白地域においてより効果を発揮しやすい。塩竈市の場合、空白地域を埋める形でNEWしおナビが運行しており、かつ市域が他自治体に比べ狭いという状況もある。導入にあたっては経費負担が増えることが考えられる。

郷家委員：アンケートの配付や回収について、高齢者のためバス車内への設置など対応できないか。

事務局：アンケートの配布の方法として、事務局員がバスに乗車し、乗客への配付も考えていた。また、バス車内での回収も検討していたため、実施の際は高齢者にも配慮し行いたい。

中村委員：今利用されている人は、料金を上げてでもそれなりに利用してくれるのではないかと。現在利用していない人が利用するような方法というのも大事ではないか。

事務局：現在バスを利用されていない方は、自家用車の所有など何らかの移動手段があるという可能性が高く、新規利用者を増やすことは難しいとも考えられる。しかしながら、利用者全体数を増やすためには、ご指摘のとおり、新規利用客の確保も重要であるため、引き続き乗客増加策についても検討していきたい。

会長：今の話は市内の方だけでなく、市外の方に対しても市としてアプローチしたらどうかというご提言だと受け止めた。そういった点も含めて、当局の方で検討させていただく。

事務局：今日いただいた意見を取りまとめ検討し、その結果を次回会議で提示する。次回は7月中旬から下旬頃を予定している。